

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	演習	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	情報リテラシーⅡ	担当者名	江口真理
授業の概要	情報リテラシーⅠで学んだ情報処理の基礎の上に、短大の学修および実社会で必要とされるコンピュータリテラシーを学ぶ。PowerPointを活用したプレゼンテーションのスライド作成およびプレゼンテーション技能を学ぶ。Excel、Word、Powerpointの効果的な利用法を習得する。		
科目の到達目標	PowerPointで作成したスライドを用いてより効果的なプレゼンテーションができるようになること。グループ活動を通して、協働して課題を達成するプロセスを理解すること。WordおよびExcelの基礎を踏まえてより高度な文書作成、データ処理ができるようになること。		
授業時間外学修(予習・復習)	各回の授業時に課せられた課題について、次回の授業時までには準備をすること。また、授業時に解決していない課題を次回までに見直しを立てておくこと。		
フィードバックの方法	PowerPointの基本操作は課題提出に対してフィードバックを行う。グループワークおよび個人ワークの課題については完成までのプロセスと成果について、コメント等でフィードバックを行う。		
単位認定の要件	課題提出、グループワークの発表、個人ワークの発表		
評価の方法・割合(%)	課題提出(30%)、グループワークの発表(40%)、個人ワークの発表(30%)		
履修上の注意事項	演習の授業なので毎回出席することが望ましい。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			プレゼンテーションの基礎(テキストp.178-185)	課題提出
2			PowerPoint2019の基本操作①スライドマスター・配布マスターなど	課題提出
3			PowerPoint2019の基本操作②スライドの編集・効果の活用	課題提出
4			コンセンサス演習(グループワーク)	課題提出
5			グループ活動プレゼンテーション準備①テーマ決定・情報収集・整理	課題提出
6			グループ活動プレゼンテーション準備②情報収集・整理・ストーリー作成	課題提出
7			グループ活動プレゼンテーション準備③プレゼンシート作成	課題提出
8			個別活動プレゼンテーション準備①テーマ決定・情報収集・整理	発表・プレゼン評価表
9			グループプレゼン発表	課題提出
10			個別活動プレゼンテーション準備②テーマ決定・情報収集・整理	課題提出
11			個別活動プレゼンテーション発表	発表・プレゼン評価表
12			Excel応用①グラフ作成の応用・ピポットテーブル	課題提出
13			Excel応用②効果的なデータ作成・編集	課題提出
14			Excel応用③画面切り替え・アニメーション、音声の活用	課題提出
15			Excel応用④WordやPowerpointでの利用	課題提出
期末試験				

使用テキスト	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術』
参考文献 参考URL	Web教材(授業で指示する。)
備考	基本的に、青森での合同授業時にPowerPoint演習を行う。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	演習	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	MOS検定Ⅱ	担当者名	江口 真理
授業の概要	1年次開講科目の「情報リテラシーⅠ」で学習したExcelの操作をさらに強化し、多種多様の文書を作成し、応用操作の技術を身につける。また、この授業では、マイクロソフト認定資格(Microsoft Excel)合格レベルを目標とする。認定資格のための模擬試験も実施する。Excel合格者はPowerPointの受験対策を行う。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Excelの応用操作を習得し、実務に必要なスキルを身につけること。 マイクロソフト認定資格Microsoft Excel (Microsoft 365 Apps and Office 2019)の合格レベルを目標とする。 Excel合格者はPowerPointの受験対策を行う。 		
授業時間外学修(予習・復習)	テキスト学習期間は、自主的に復習に取り組む。当該授業の内容を完全に理解し応用できる程度まで行う。テキスト内容終了後は、巻末の模擬テストを自主的に取り組む。模擬テストは、練習モードでの取り組みを30分程度、本番モードでの取り組みの際は既定の50分に取り組む。		
フィードバックの方法	課題及びスコアシートに示される克服すべき点について、授業担当者より各学生にフィードバックを行う。		
単位認定の要件	練習課題提出および模擬試験合格点(700点以上)3回分以上のスコアの提出を課す。		
評価の方法・割合(%)	練習課題提出(50%)、スコアシート提出(50%)		
履修上の注意事項	演習の授業なので、毎回出席することが望ましい。欠席した場合は、空き時間に課題を補うこと。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			基本操作(文字入力・画面説明)	演習課題提出
2			データ作成および操作(データ入力)	演習課題提出
3			データの作成および操作(ワークシート管理)	演習課題提出
4			データと内容の書式設定	演習課題提出
5			データと内容の書式設定(テーブルスタイル)	演習課題提出
6			数式の作成および編集(集計)	演習課題提出
7			数式の作成および編集(条件・検索)	演習課題提出
8			データの視覚的表示(グラフ)	演習課題提出
9			データの視覚的表示(画像・SmartArt)	演習課題提出
10			データの共有とセキュリティの設定	演習課題提出
11			認定資格取得のための模擬試験①第1回模擬試験	スコアシート提出
12			認定資格取得のための模擬試験②第2回模擬試験	スコアシート提出
13			認定資格取得のための模擬試験③第3回模擬試験	スコアシート提出
14			認定資格取得のための模擬試験④第4回模擬試験	スコアシート提出
15			認定資格取得のための模擬試験⑤第5回模擬試験	スコアシート提出
期末試験				

使用テキスト	『MOS攻略問題集 Excel 365 & 2019』日経BP社
参考文献 参考URL	『MOS攻略問題集 PowerPoint 365 & 2019』日経BP社(Excel本試験合格者のみ使用)
備考	本校はMOSの本試験(50分)の随時試験会場なので、希望者は受験することが望ましい。(年間24回の試験日時設定あり)

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	演習	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	統計の基礎	担当者名	櫻本 和也
授業の概要	第四次産業革命と称される「データサイエンス」について、多岐にわたる知識と学際的な背景から統計の基礎的知識の習得を目指す。特にSPSSによる量的アプローチに加え、立命館大学の樋口耕一教授が開発したフリーソフトウェアのKH Coderによる質的アプローチの両側面から統計の基本的な考え方と手法について学修する。その上でデータ収集からデータの分析・可視化に至る基礎的能力を修得し、現代社会に溢れる情報を適切に取り扱う能力を養う。		
科目の到達目標	1. 現代的な課題の特定・設定を基にしたデータの収集や読み取る過程で、統計的解釈の重要性を理解した上で分析することができる。 2. インプット(データ収集, データ加工・可視化, 統計的解釈など)から、アウトプット(レポート、評価)に至るまで実施できる。		
授業時間外学修(予習・復習)	予習: グループでの役割分担や意見交換を通して、次回の講義内容にかかる情報収集に努める(毎回、2時間程度)。 復習: 授業内容の振り返りと進捗状況をグループで確認し、次回の講義に向けた情報共有を行う(毎回、2時間程度)。		
フィードバックの方法	理解度調査と講義内容への質問・要望をコミュニケーションシートとしてロイロノートに提出。各回ごとに管理し、フィードバックと振り返りの実施に活用する。		
単位認定の要件	グループワークとディスカッションの協働による課題、および発表と期末課題で単位修得の基準を満たすこと。		
評価の方法・割合(%)	課題及び提出物(10%)、グループワーク活動(45%)、発表・期末レポート(45%)で総合的に評価する。		
履修上の注意事項	グループワークが中心となるため、メンバー間でのコミュニケーションが不可欠となる。積極的な姿勢で取り組んで欲しい。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			授業概要・データサイエンスとは	グループワーク
2			オリエンテーション: データを体感する	コミュニケーションシート
3			現代的課題・目的の特定(ブレインストーミング)	グループワーク
4			グループワーク①: ブレインストーミングとKJ法の実践	ディスカッション
5			グループワーク②: KJ法による課題と目的の特定	ディスカッション
6			データの収集	コミュニケーションシート
7			データの収集と分析①(SPSS・KH Coderの使い方)	コミュニケーションシート
8			データの収集と分析②(KH Coderを用いて分析を行う)	コミュニケーションシート
9			進捗・中間報告会	プレゼンテーション
10			データの加工と可視化	グループワーク
11			レポートの準備①(各グループで発表準備を進める)	ディスカッション
12			レポートの準備②(リハーサル発表を実施する)	ディスカッション
13			レポート(前半発表クラス)報告会と省察	プレゼンテーション
14			レポート(後半発表クラス)報告会と省察	プレゼンテーション
15			統計の基礎にかかるまとめと期末課題	レポート
期末試験			実施しない	

使用テキスト	資料・レジユメを配布する。
参考文献 参考URL	https://kncoder.net/ その他、適宜紹介する
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	演習	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	中国語Ⅱ	担当者名	藤巻 啓森
授業の概要	この科目は入門編を終了した学生のために、引き続き正しい発音することができる能力を身につけるようにする。そのための耳と口の徹底的な訓練過程で基礎的な語句や文を学びながら、単文を中心とした口語の基本文法をマスターすることを目的とする。口語の基本的な例文を繰り返し徹底的に学習し、例文のすべてを正確に音声化することで将来の運用能力養成の前提となるよう進めたい。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、中国語Ⅰのあとをうけ、さらに一步進んだ中国語の基礎事項を学習することにある。引き続き徹底した発音訓練を行うのはもとより、文法的には複文を含むやや複雑な文法に進む。「中国語能力検定試験」の4級に合格するように目指す。 ・中国語会話の学習を通じて、中国の文化・歴史・社会・生活・習慣などを理解する。視野を広め、異文化への理解をより一層深めさせ、国際化する現代の社会に適応する人としてのあり方を考えさせる。 		
授業時間外学修(予習・復習)	毎日約30分の練習と復習が必要。		
フィードバックの方法	教務課より中間及び期末試験の結果を返却する。		
単位認定の要件	授業態度、学習意欲、そして期末試験の成績により単位認定の要件とする。		
評価の方法・割合(%)	1. 期末試験 70% 2. 出席率及び授業態度 30%		
履修上の注意事項	事前の予習、事後の復習必要あり		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			第10課 出来事を尋ねる② 様態補語 “是～的”“～なのです”	会話
2			第11課 希望を尋ねる 1. 助動詞“想”“～したい” 2. 動作の完了を表す“了”“～した” 3 前置詞	会話
3			第12課 行き方を尋ねる “怎么”“どうやって”“どのように”	会話
4			第13課 経験を尋ねる 経験を表す“过”“～したことがある”	会話
5			復習Ⅲ	練習問題の提出
6			第14課 相手の都合を尋ねる 1. 助動詞“会”“～できる” 2. 助動詞“能”“～できる” 3 連動文②	会話
7			第15課 比較する 1 比較を表す“比” 2 反復疑問文	会話
8			第16課 条件・情報を尋ねる① 1 全治し“离”“～から／～まで” 2 “有点儿”“ちよつと”	会話
9			第16課 条件・情報を尋ねる① 1 全治し“离”“～から／～まで” 2 “有点儿”“ちよつと”	会話
10			第17課 進行状況を尋ねる ① 動作の進行を表す副詞“在”	会話
11			第17課 進行状況を尋ねる ② 結果補語	会話
12			第18課 別れを告げる ① 助動詞“要”“～しなければならない”	会話
13			第18課 別れを告げる ② 変化を表す“了”	会話
14			復習Ⅳ	練習問題の提出
15			総合復習	練習問題の提出
期末試験			筆記試験	

使用テキスト	『できる・伝わる コミュニケーション中国語』
参考文献 参考URL	随時に指示
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	15時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	スポーツと健康(講義)	担当者名	菅原文子
授業の概要	スポーツと健康の関わりについて科学的に学ぶことにより、健康的な生活を送るための実践力を身につける。		
科目の到達目標	(1)スポーツ文化の多様性について考察し、表現する。 (2)健康を適切に管理し、改善するための方法について考察し、表現する。 (3)他者との学び合い等を通して、考えを広げたり深めようとする態度を身につける。		
授業時間外学修(予習・復習)	テーマに応じ事例の情報収集等を指示する。		
フィードバックの方法	授業内の課題に対する取り組み状況・結果を毎時間フィードバックする。		
単位認定の要件	授業に対して積極的に取り組み、見方・考え方を深めること		
評価の方法・割合(%)	授業への参加姿勢(60%) レポート(40%)		
履修上の注意事項	保育士及び幼稚園教員免許取得のための必修科目である。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			スポーツの歴史・起源	講義・グループワーク・レポート
2			スポーツのルールや技術の変化、種目の変遷	講義・グループワーク・レポート
3			ライフスタイルと運動	講義・グループワーク・レポート
4			運動と健康・感染症の予防	講義・グループワーク・レポート
5			健康と運動・感染症の予防	講義・グループワーク・レポート
6			職場の健康づくり・応急処置の意義と基本	講義・グループワーク・レポート
7			無理なく・楽しくできる体操づくり①	グループ演習・レポート
8			無理なく・楽しくできる体操づくり②:発表	グループ演習・レポート
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
期末試験				

使用テキスト	
参考文献 参考URL	・スポーツの歴史と文化(道和書院) ・スポーツルール学への序章(大修館書店) ・これからの健康とスポーツの科学(講談社) ・生涯スポーツと運動の科学(市村出版) ・スポーツの得意な子に育つ運動遊び
備考	進行状況により、授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。